

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立 唐津商業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	① 生徒の進路保障は100%達成した。また、佐賀県内の高校生の県内就職率が66.6%であるなか、本校は67.7%と上回ることができ、一定の成果を得ることができた。 ② 今年度は、生徒が40人増加し、4クラスを維持することができるため、学校に勢いをつけ、唯一無二の魅力ある学校づくりに取り組む姿勢が必要である。
2 学校教育目標	幅広い知識と教養を身に付け、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材(人材)を育成する。 ○ 社会や経済の持続的な発展に寄与できるビジネス教育 ○ ふるさと唐津の様々な資源を活用した探究活動 ○ 地域や社会、生徒の実態に応じたキャリア教育 ○ 豊かな体験学習等を通じた心の教育
3 本年度の重点目標	① 基礎学力の向上を図るため、一律に到達目標を明示し指導する一方で、個人の能力に応じた到達度も的確に評価することで能動的な学びを定着させる。 ② 実社会に求められている「ホスピタリティマインドの醸成」の必要性を早期に気づかせ、商業教育と結びつけることで生徒の意欲的に学ぶ姿勢を引き出す。 ③ 常に地域社会貢献の視点を持ち、学校自らの情報を積極的に発信しながら、学校活動全般を通じて地域社会と共存する学校づくりを目指す。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○基礎的学力の向上と定着 ○学力診断・各種適性検査を活用	○家庭学習が定着したという生徒の割合85%以上 ○学力診断に基づく客観的分析の実施問題解決できる生徒の割合70%以上	・就職試験に対応できる普通教科の基礎学力定着を重点的に指導する。 ・主体的な進路選択ができるよう、客観的データを有効に活用しながら進路指導を行う。	A	・実力診断テストの結果から、担任・教科が生徒個人やクラスの学力を把握し学力向上の一助とするための検討会を計画している。
	○確かな知識と技能の習得 ○高度な資格取得	○会計科は、3年次までに日商簿記検定2級の全員取得 ○情報処理コースは、3年次までに全商検定4種目以上の1級取得 ○OACコースは、3年次までに全商検定2種目以上の1級取得	・商業科目の中で、資格取得の意義を理解させるとともに、資格の活用についても考えさせる指導を行う。 ・資格取得の有用性を考えさせる進路指導を行う。	A	・時宜に応じて指導を行っている。会計科の日商簿記検定2級の11月末時点での取得率は、3年生で90%、2年生で51%である。 ・日商簿記検定1級に1名合格している。	B	・知識と技能の習得を目指し、努力を重ねることができた ・全商検定では、3年次までに64%は個に応じた検定種目で1級を取得できた。 ・適度省ITパスポートや全経簿記、日本情報処理検定協会等の学習もでき、幅広い知識を身に付けさせることができた。 ・会計科の日商簿記検定2級の取得率は月末時点で3年生90%、2年生95%となっており、概ね達成できた。	B	・高い合格率だと思ふ。一方で、検定合格のための授業だけでなく、社会に出て使える授業を考えてほしいと思う。 ・会計科の日商1級の合格が伸びていない。原因を解明し、今後の指導に繋げてほしい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・授業や特別活動、部活動など教育活動における様々な機会を用いて、指導を行った教員の割合90%以上 ・SNSを適切に扱っているとする生徒の割合85%以上	・授業、特別活動、部活動など全ての教育活動において、道徳教育を念頭に置いて指導を行い人や社会の多様性、命の大切さ、他者への思いやりの心を身に付けさせる指導を行う。 ・SNSの取扱いや情報モラルについては、生徒指導員や講話など高い頻度で指導を行う。	A	・授業や部活動、特別活動など各教育活動を通して多様性や命の大切さについて指導を行うことができた。 ・学期1回以上は生徒指導員より発行したり、月に1回以上は集金などを通して、SNSの取扱いや情報モラルについて適切な指導を行った。HRIにおいても担任をはじめ、各教員が注意喚起を行った。	A	・事例をあげながら、授業や特別活動など各教育活動を通してジェンダーなど多様性や事件・事故による命の大切さ、いじめを許してはならないなどの指導を行うことができた。 ・学期1回以上は生徒指導員より発行することができた。 ・各行事ごとや集金のたびにSNSの取扱いや情報モラルについて適宜指導を行った。また全体だけでなく、学年主任や担任をはじめ各学年、各クラスごとで注意喚起を行うことができた。	A	・SNSの取扱いは、今後も引き続き指導が必要だと思ふ。 ・今の取り組みを継続していただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止策について、日ごろから組織的に対応していると考えられる教員の割合90%以上 ○いじめを許さない教育が行われていると考える生徒の割合80%以上	・いじめ認知、認知の定義について職員会議等で周知徹底するとともに、対応マニュアルの見直しを行う。	B	・学期1回の上記アンケートを実施し、迅速な認知と認知に努めた。	A	・職員間でのいじめの予防に努め、研修会で正確で積極的な認知について理解したりした。組織的に対応していると認識していると全職員が認識している。 ・いじめを許さない教育がなされているとされている生徒の割合は89.8%であった。100%に近づこう努める。	A	・いじめと悪ふざけの境を生徒に考えさせることが大事だと思ふ。
	◎★ふるさと唐津への思いを醸成するための教育活動	◎佐賀県や唐津市(地元)に誇りと愛着を感じる生徒の割合を85%以上	・地域の伝統文化に精通している人や地域貢献活動を行っている人を招いて講演会を行う。	A	・本校卒業生で地元企業社長の方から「地元からつづろグローバル経済への挑戦」と題した講演会を実施した。	A	・「佐賀に誇りと愛着を感じますか」というアンケートに対して、「ある」と回答した3年生の割合は88.8%。地元唐津への愛着は醸成されつつあるよう感じられる。	A	・唐津で活躍できる生徒が増えると嬉しい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大事である」と考える生徒の割合を90%以上	・朝食喫食率調査を継続する。 ・手作り弁当を推奨する。	A	・健康を維持するのに食事は大切であると考えられる生徒の割合は、2年生は92%と高く、ほとんどの生徒が手作り弁当を持参している。	A	・弁当持参率が過去3年間で最も高く98%であった。食事の大切さを意識できており、家庭の協力も得られている。	A	・弁当持参率98%はすごいことだと思ふ。保護者の愛情が感じられる。 ・食の大切さが理解できているのは素晴らしいと思う。ただ食べるだけでなく、作ることを日常的にできることが大切である。一人暮らししても困らない程度に家庭、学校で学んでほしい。
	○健康診断後の受診率向上	○健康診断後の各検査の生徒の再受診率が60%以上	・健康診断後の受診勧奨と保健指導を継続して行う。	B	・受診勧奨は繰り返し配布し、保健だよりやHRでも度々連絡しているが、各科の受診率は10~38%と伸びていない。	B	・受診勧奨、保健だより、集金、HR、個人面談などで何度も受診を促したが、各科の受診率は10%台~30%台と伸びなかった。3年生の中には、就職前に受診する傾向がある。	B	・引き続き努力を続けていくことが大切。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日に設定する。 ・事務システムポータルサイトの活用による連絡事項等の周知徹底を図る。 ・会議時の説明資料を整理し、会議時間の短縮を図る。	B	・時間外在校時間月45時間以内、年間360時間以内の目標を周知し、11月末時点で平均28時間43分(昨年比△2時間13分)である。 ・学校閉庁日にほとんどの職員が夏季休暇を取得した。	B	・時間外在校時間月45時間以上の月が6月以上であった職員が8人。まだ改善の余地がある。 ・会議は、ほぼ時間内に終了し、提案者の資料説明も簡素化できている。	B	・部活動の負担が減れば、かなり緩和されるのではないかと。
	○年休取得の推進	○教職員月1回以上の年休取得を目指す。	・定期考査中等の会議設定を極力控え、取得しやすい環境を整える。 ・部活動等の計画的実施を促進し、休養を取りやすくする。	B	・定期考査等には年休取得を呼びかけ、年休取得日数は11月末平均で9.9日であり、12月末時点では更に上昇する見込みである。(昨年比△2日)	B	・1年間の全職員年休消化の平均は、14日であった。一部職員に業務の偏りがある点を改善する必要がある。	B	・教職員の過労により生徒への指導に影響が出ないよう、適度に休暇取得を。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				A	・地域貢献ボランティアは、各部活動や生徒会等で多く参加することができる。当初、生徒会で予定していた以外のボランティア活動も行うことができた。	A	・各部活動において地域貢献ボランティアを計5回実施することができている。 ・生徒会行事としても、地域の清掃活動を実施することができている。	A	・自主的に取組ができていて素晴らしいと思う。 ・虹の松原清掃、地域のゴミ拾いは地元の小中学生も行っている。
○地域貢献活動	○虹(松原)清掃活動を年2回以上行う。 ○各部活動で地域貢献となる活動を年1回以上行う。	○虹(松原)清掃活動を年2回以上行う。 ○各部活動で地域貢献となる活動を年1回以上行う。	・地域貢献活動を生徒へ呼びかけ、奉仕活動に対する取り組みの意識を高める。	A	・地域貢献ボランティアは、各部活動や生徒会等で多く参加することができる。当初、生徒会で予定していた以外のボランティア活動も行うことができた。	A	・各部活動において地域貢献ボランティアを計5回実施することができている。 ・生徒会行事としても、地域の清掃活動を実施することができている。	A	・自主的に取組ができていて素晴らしいと思う。 ・虹の松原清掃、地域のゴミ拾いは地元の小中学生も行っている。
○ビジネス教育の育成	○★SAGASマートラーニング指定校として実践型ビジネス教育を実施	○未来の唐津を担う人材として社会で活躍できる生徒を育成する。 ★月2回外部講師の招聘。 ○地元企業に求められる人材を育成する。商業高校で学んでいることが、ビジネスの現場でどのように役に立つかを教える。	・地元企業とコラボしてオリジナル商品の開発をし地域とつながる活動を行う。 ・地域行事やイベントに積極的に参加する。 ・企業インタビューやインターンシップを充実させる。 ・年2回以上、地元企業経営者を招いて商業教育とビジネスのむずびつきを学ぶ。	A	・コロナ感染拡大のため対面での実施を見合わせていた本校独自の進路ガイダンスを3学期に予定している。 ・職場見学には29名の生徒が参加し就職先決定の一助となった。 ・地元企業とコラボした商品開発を2社と行い現在商品化に向けて活動内容を充実させているところである。 ・からつ学美舎として地域イベントに計7回参加し、地域住民や地元企業の方との交流を深めた。 ・月2回の外部講師の講義を計画的に行い地域の課題について考え、解決策を模索した。	A	・地元企業とコラボした商品開発は、試作品が完成し来年度商品化できる見込みである。 ・からつ学美舎として地域イベントに計9回、延べ11日参加し地域住民や地元企業との交流を深めると共に生徒のキャリア形成に役立てることができた。 ・外部講師を積極的に活用したことで、地域の課題解決を提案し、アイデアコンテストでも最優秀賞を獲得することができた。ビジネス教育を実践することができた。	A	・取組の成果が見えることで生徒も達成感を得ることができている。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	・基礎学力の向上を図るための、個の能力に応じた到達度を評価する姿勢をさらに明確にしていく必要がある。 ・「ホスピタリティマインドの醸成」の必要性については、折に触れて意識づけをすることができた。商業教育の意義の理解と、生徒の意欲的に学ぶ姿勢を引き出していきたい。 ・保護者、地域社会との接点を多く持つことによって、地域社会貢献の意識の萌芽が見られた。積極的な情報発信を行いながら、学校活動全般を通じて地域社会と共存する学校づくりを目指していく。
----------------	--